

## 第9回 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

◎第9回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会が平成25年1月30日に福井市地域交流プラザ（アオッサ6階）において開催されました。

### 足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所長 島本和仁所長

### 委員長挨拶



福原輝幸委員長

### 審議状況



第9回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会は、水環境、哺乳類、鳥類、陸上昆虫類、底生動物、植物、生態系、付着藻類、河川物理環境を担当分野とされる10人の委員で開催されました。

## 第9回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会出席委員

| 担当分野                   | 氏 名             |            | 現 職 等                       |
|------------------------|-----------------|------------|-----------------------------|
| 水 環 境                  | 奥村 充司           | おくむら みつし   | 福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授       |
|                        | 福原 輝幸<br>(委員長)  | ふくはら てるゆき  | 福井大学大学院工学研究科 教授             |
| 哺 乳 類                  | 西垣 正男           | にしがき まさお   | 福井県農林水産振興課 主任               |
| 鳥 類<br>(鳥類部会)          | 松村 俊幸           | まつむら としゆき  | 福井県海浜自然センター 次長              |
|                        | 久保上 宗次郎         | くぼかみ そうじろう | 猛禽類研究家                      |
|                        | 林 武雄<br>(鳥類部会長) | はやし たけお    | 日本鳥類保護連盟 福井県支部長             |
|                        | 上木 泰男           | うえき やすお    | 日本鳥類保護連盟                    |
| 爬 虫 類<br>両 生 類<br>陸産貝類 | 長谷川 巖           | はせがわ いわお   | 福井県両生爬虫類研究会 会長              |
| 魚 類<br>生 態 系           | 加藤 文男           | かとう ふみお    | 元 仁愛女子短期大学 教授               |
| 陸上昆虫類                  | 下野谷 豊一          | しものや とよかず  | 日本鱗翅学会 会員                   |
| 底生動物                   | 前田 正紀           | まえだ まさのり   | 元 仁愛女子短期大学 准教授              |
| 植 物<br>生 態 系           | 渡辺 定路           | わたなべ さだみち  | 元 福井市自然史博物館 館長              |
| 付着藻類                   | 安達 誘            | あだち さそひ    | 福井陸水生物研究会 会員                |
| 河川物理環境                 | 角 哲也            | すみ てつや     | 京都大学 防災研究所水資源環境研究センター<br>教授 |

※久保上委員、長谷川委員、加藤委員はご欠席。

## 第9回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会での審議骨子

### I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・国土交通大臣意見と対応方針について
- ・廃棄物等（伐採木）の環境保全措置の検討について
- ・評価書からの主な変更について

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

| 委員からの意見                                                                                               | 事務局回答                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| アジメドジョウの実験結果は、高濃度で短期間でのインパクトに対する非常に貴重な知見である。実験では数値的には濁水に強い種と推測できるが、今後もデータを蓄積し、避難場所としての条件の把握等を行って頂きたい。 | 今後、洪水時の避難場所の選定や条件設定について、伏流水周辺における洪水後の生息状況の調査を実施して行きます。                 |
| ミゾゴイは里山の薄暗い場所に生息する、非常に見つけにくい種であり、今後の鳥類調査においては、本種の特徴を意識した調査を行うべきである。                                   | 今後、モニタリング調査を実施するに当たっては、頂いた意見を踏まえ、専門家の指導・助言を得ながら適切に進めて行きます。             |
| 濁水の長期化は付着藻に対し悪影響を及ぼす可能性があるが、ダム建設による影響についての考え方を示して頂きたい。                                                | 足羽川ダムは流水型ダムであるため、濁水の長期化は生じないと予測しており、濁水による付着藻の生育環境への影響は小さいと考えています。      |
| 伐採量の縮減については、樹種、洪水時の貯水池の状況及び生態系を考慮した伐採計画となるよう検討すること。                                                   | 伐採量の縮減については、ご指摘を踏まえて、適切に計画を策定して行きます。                                   |
| 環境の維持のためには、調査やモニタリングにおいて素早い対応が重要である。各委員からの貴重な意見やアドバイスを生かし、次のステップへ進めて行って頂きたい。                          | 今後、事業は新たな段階へ入って行くこととなります。これまでの委員会の中で頂いた貴重な意見を踏まえ、責任を持って進めて行きたいと思っています。 |